

シンポジウム：情報管理組織のミッションと専門職養成

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院：教授


大沼, 太兵衛
国立国会図書館

平野, 泉
立教大学共生社会研究センター

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館学術サポート課長

<https://doi.org/10.15017/4738541>

出版情報：2021-11-27. 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
バージョン：
権利関係：

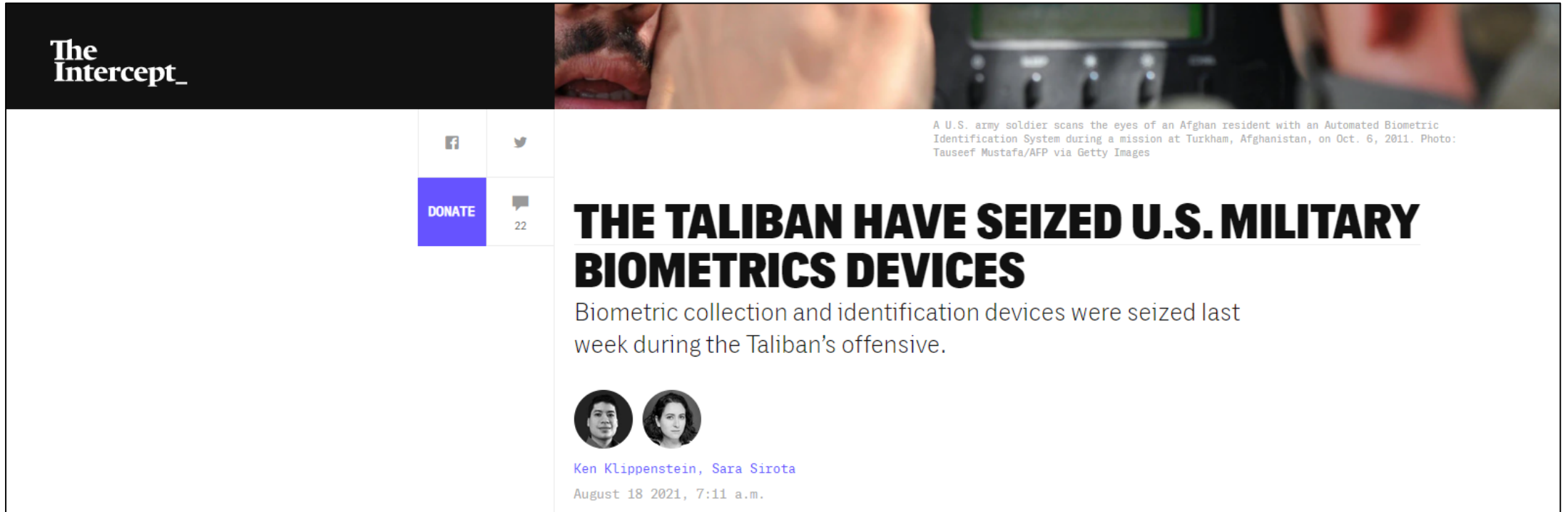


シンポジウム
「情報管理組織のミッションと専門職養成」
@九州大学中央図書館
2021-11-27

アーキビストは 資料・情報管理の専門職なのか？

立教大学共生社会研究センター
平野 泉 (izhirano@rikkyo.ac.jp)

始める前に(1)



The Intercept_

A U.S. army soldier scans the eyes of an Afghan resident with an Automated Biometric Identification System during a mission at Turkham, Afghanistan, on Oct. 6, 2011. Photo: Tauseef Mustafa/AFP via Getty Images

THE TALIBAN HAVE SEIZED U.S. MILITARY BIOMETRICS DEVICES

Biometric collection and identification devices were seized last week during the Taliban's offensive.

Ken Klippenstein, Sara Sirota

August 18 2021, 7:11 a.m.

Navigation: Facebook, Twitter, Donate, 22 comments

The Intercept_, “The Taliban Have Seized U.S. Military Biometrics Devices”,
<https://theintercept.com/2021/08/17/afghanistan-taliban-military-biometrics/>, accessed
2021-09-16.

Reported on *Archives and Human Rights: News from the Section on Archives and Human Rights*,
SAHR:ICA, Issue no. 140, 2021-08.

始める前に (2)

PRIO Blogs, “Contingency Planning in the Digital Age: Biometric Data of Afghans Must Be Reconsidered”,

https://blogs.prio.org/2021/08/contingency-planning-in-the-digital-age-biometric-data-of-afghans-must-be-reconsidered/?fbclid=IwAR2EVG3FeyHHt-kzvH2cWwk9EAwkimIfr_pHIWe2f0IDLiBgCCJh vJulSxY, accessed 2021-09-16.

Reported on *Archives and Human Rights: News from the Section on Archives and Human Rights*, SAHR:ICA, Issue no. 140, 2021-08.



 PRIO | Blogs

Home Climate & Conflict Security Dialogue Arctic Politics Monitoring South Sudan

Contingency Planning in the Digital Age: Biometric Data of Afghans Must Be Reconsidered

Posted August 26, 2021 by Katja Lindskov Jacobsen and Karl Steinacker & filed under Humanitarianism, Security

問い(1)

私はタリバーン暫定政権のアーキビストになれるだろうか？

問い(2)

アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか？

今日の報告

1. 自己紹介:「偶然のアーキビスト」?
2. 現在の職場:立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い(1)について考える
4. 問い(2)について考える
5. 終わりに

履歴(1)

1986 大学卒業(外国語学部ドイツ語学科)、銀行に就職

1988~1989 ヨーロッパに1年間滞在、帰国後結婚

1989~ 専業主婦

1990 通信制大学(法学部)入学

1993 医療福祉系専門学校(言語聴覚療法専攻科)入学

1995~1998 とある総合病院のリハビリテーション科勤務

おそらく1999 埼玉大学経済学部社会動態資料センターでアルバイト

履歴(2)

- おそらく1999 埼玉大学経済学部社会動態資料センターでアルバイト
- 2000 南ドイツ新聞極東支社長アシスタント
- 2002 埼玉大学共生社会研究センター非常勤職員
- 2008 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻
博士前期課程入学
- 2010 同課程修了、立教大学共生社会研究センターへ
学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程に進学
- 2013 同課程単位取得退学

今日の報告

1. 自己紹介:「偶然のアーキビスト」?
2. 現在の職場:立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い(1)について考える
4. 問い(2)について考える
5. 終わりに

立教大学共生社会研究センターとは



立教大学共生社会研究センターとは

目的(センター規則 第2条)

「…埼玉大学と協力して、国内外における
多様な市民の社会活動に関する資料を
収集整理、保存、公開し、それに基づく
実証研究を通じて、持続可能な共生社会の
実現に資すること」

「多様な市民の社会活動に関する資料」



S01 吉川勇一氏旧蔵・「ベ平連」運動関連資料



R09/10 下垣桂二氏・楠原彰氏旧蔵
反アパルトヘイト運動関連資料

社会運動のアーカイブズ

- 20世紀前半から収集機関増加
 - 運動経験を継承する必要
 - counter-narrativeとしての意義

今日の報告

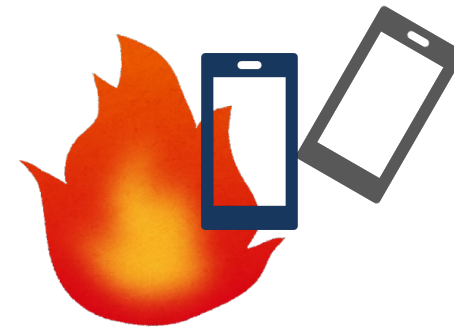
1. 自己紹介:「偶然のアーキビスト」?
2. 現在の職場:立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い(1)について考える
4. 問い(2)について考える
5. 終わりに

問い(1)

私はタリバーン暫定政権のアーキビストになれるだろうか？

2019年8月、アメリカ・アーキビスト協会(SAA)大会での 「ブラウンバッグランチ中止」の衝撃

- The American Archivist (以下「AA」) 掲載予定のFrank Boles 論文“*To Everything There is a Season*”を用いた「ブラウンバッグランチ」企画
- 企画実施前にSNSが「炎上」: 著者のBoles、AA誌編集委員、SAA への非難



2019年8月、アメリカ・アーキビスト協会(SAA)大会での 「ブラウンバッグランチ中止」の衝撃

- SAAは企画中止を決定
- AA誌は企画中止に至る経緯の説明文と、Boles論文及びそれに対する反論を同時掲載
- BolesはSAAを退会

「ブラウンバッグランチ中止」の背景(1)

- 大きな前提: アメリカ・アーカイブズ界で蓄積してきたアーキビスト・アーカイブズと社会正義 (social justice) をめぐる議論
- Randall JimersonとMark Greeneによる「社会正義論争」(2013)
 - Jimerson: アーキビストは社会正義の実現を目指す
 - Greene: 個人として社会正義を追求するのはよいが、専門職としてはどうか
- 異なる意見を持つ二人が、互いを尊重しつつ議論

「ブラウンバッグランチ中止」の背景(1)

- 源流は1970年代初め
 - 1970年SAA大会でのHoward Zinn講演
 - 社会的統制の強力な形式としての専門性
 - そのことに無自覚なアーキビスト
 - 保存されるアーカイブズは富・権力の分配のされ方に規定 (Zinn 1977)
 - コレクションを「人類に差し出す鏡」に (Ham 1975:13)
 - *このあたりのことは平野(2013)にも
- アーキビストの仕事の「権力性」:「情報は権力」

「ブラウンバッグランチ中止」の背景(2)

【情勢の変化】

- 2015~16年 #BlackLivesMatter が全国的運動に
- Mario Ramirez (2015) : Greene (2013) を素材にアメリカ・アーカイブズ界の白人中心主義を批判
- 問題のBoles (2019) はRamirez (2015) への反論として書かれ、Greene (2013) への共感を示したもの

👉 「特権を享受する側」への怒りがBolesに向けられた？

👉 KKK記録の購入に関するBoles (1995) まで批判された

「ブラウンバッグランチ中止」の背景(3)

【「social justice」概念のあいまいさ】

アーカイブズ界では、そもそも「social justiceとは何か？」を明確に定義しないまま議論がなされてきた(Wallace 2017)

- 2013年のsocial justice=社会「正義」
- その後のsocial justice=おそらく日本語では「社会的公正」?

「ブラウンバッグランチ中止」の背景(3)-2

【「social justice」概念のあいまいさ】

- 2013年のsocial justice=社会「正義」

- 不正と対峙する正義
- 特定の社会・時代の「正義」に依拠することのあやうさ

- その後のsocial justice=おそらく「社会的公正」

- 不正の存在→特権層の無自覚→不正の強化→という連鎖を止める
- よって「社会的公正」はつねに正しい
- しかしBolesは社会「正義」を念頭に議論を展開

right



vs

wrong



Stop injustice



「ブラウンバッグランチ中止」以後

- 「social justice」はもはや論点ではない
- より公正な社会のためのアーカイブズ実践には共感
 - 抑圧されたコミュニティとの協働
 - 差別的記述の見直し
- 「不公正に与する側」とみなされる組織のアーキビストになれるか？

問い(1)

私はタリバーン暫定政権のアーキビストになれるだろうか？

問い(1)

私はタリバーン暫定政権のアーキビストに…

- 基本的には「なれる」と答えるべき
- でも本音では「なれそうにない…」
- 記録を作る人々への共感が自分には必要

今日の報告

1. 自己紹介:「偶然のアーキビスト」?
2. 現在の職場:立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い(1)について考える
4. 問い(2)について考える
5. 終わりに

問い(2)

アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか？

答えは自明のこのよう…

もちろん「YES」なのだが…

- アーキビストは記録を作り・使う人々とつながる／をつなぐ仕事
- 知識やスキル、ルールや手順を超えて
- “people issues/problem” (MacLeod et al. : 2010、Oliver&Foscarini: 2014)
- うまくいかないとき、アーキビストは問題の一部

「情報の政治家」(1)

Davenport, Eccles and Prusak (1992)

- 情報は権力の源泉=その管理は政治的作用である
- 情報に基づく組織を考えるための5つの情報政治のモデルを提示

「情報の政治家」(2)

Davenport, Eccles and Prusak (1992)

- 5つの情報政治のモデル
 - a. Technocratic Utopianism (技術支配のユートピア主義)
 - b. Anarchy (無政府状態)
 - c. Feudalism (封建制)
 - d. Monarchy (君主制)
 - e. Federalism (連邦制)

「情報の政治家」(3)

Davenport, Eccles and Prusak (1992)

- 組織の現状がどのモデルに近いか、どのモデルをめざすかを定める
 - 組織文化との適合性を考慮
 - 技術的解決に関しては現実的に
 - 適切な「情報の政治家」(information politician)を選ぶ
- 組織内で「情報の政治家」になれるアーキビストが必要なのでは？

今日の報告

1. 自己紹介:「偶然のアーキビスト」?
2. 現在の職場:立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い(1)について考える
4. 問い(2)について考える:
5. 終わりに

まとまりない話をまとめてみると

- 偶然の導きで社会運動専門のアーキビストになったという個人的経験
- アーキビストは的確に資料や情報をさばければよい、というわけではない
- 資料・情報を作り、使う人々の真ただ中で悩み、動く
- 誰もが心地よくアーカイブズを利用できるように
- 誰もがよりよくアーカイブズを管理できるように
- “passive curator, active appraiser, societal mediator, community facilitator” (Cook 2013:116)

「デジタルアーカイビングに必要なスキルと能力」

(Cunningham 2008: 542)

アーカイブズ学理論やプログラミングなどの知識に加えて求められる「技術、能力、資質」として

- コミュニケーション能力・影響力
 - ・チェンジマネジメント
- 協議・交渉
- 柔軟性と健全な判断
- 調査・研究
- リスク評価・リスク管理
- システム設計と実装
- ビジネスケース作成
- モデリング&機能・プロセス分析
- 防災対策・事業継続計画

…と書いた本人でさえも

“Indeed, I sometimes wonder
if only superhumans
can deliver our expectations!”

(Cunningham 2008: 542)

アーキビスト養成課程への期待

「アーカイブズ学専攻」での学生・講師双方を経験してみて…

- 知識もスキルもどんどん古くなる：学ぶ量を増やしてもあまり意味がない
- 原理・原則を血肉とし、しかもそれをつねに問い直す姿勢
- 「誰もが読むべき文献」を読んで徹底討論
- 各科目の独立性 < プログラム全体の一貫性
- 知識転移・研究重視 < 課題発見／解決・討論重視
- 何もかもが学びのネタとなりうる
- 養成課程の増加→効果的なアーキビスト教育法の研究を

「そんな専門家風、吹かすもんじゃない」



いらすとやさん、ありがとうございます…

参考文献（スライド文中未掲載分）-1

- Boles, Frank. " " Just a Bunch of Bigots" : A Case Study in the Acquisition of Controversial Material. " *Archival Issues*, vol.15, no.1, 1994, pp.53-65.
- Boles, Frank J. "To Everything There Is a Season." *The American Archivist*, vol.82, no.2, 2019, pp. 598-617. <https://doi.org/10.17723/aarc-82-02-21>
- Cook, Terry. "Evidence, memory, identity, and community: four shifting archival paradigms. " *Archival Science*, vol.13, 2013, pp.95-120. <https://doi.org/10.1007/s10502-012-9180-7>
- Cunningham, Adrian. "Digital Curation/Digital Archiving: A View from the National Archives of Australia." *The American Archivist*, vol.71, issue 2, 2008, pp.530-543. <https://doi.org/10.17723/aarc.71.2.p0h0t68547385507>
- Davenport, Thomas H., Robert G. Eccles, Laurence Prusak. "Information Politics." *Sloane Management Review*, Fall 1992, pp.53-65.

参考文献（スライド文中未掲載分）-2

Greene, Mark A. "A Critique of Social Justice as an Archival Imperative: What Is It We're Doing That's All That Important?" *The American Archivist*, vol. 76, no.2, 2013, pp.302-334. <https://doi.org/10.17723/aarc.76.2.147441214663kw43>

Ham, F. Gerald. "Archival Edge. " *The American Archivist*, vol.38, no.1, 1975, p.5-13. <https://doi.org/10.17723/aarc.38.1.7400r86481128424>

平野泉「アメリカのアーキビストと社会運動記録：“Archival Edge”をめぐって」GCAS report=学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報, vol.2, 2013, pp. 58-67. <http://hdl.handle.net/10959/3741>

Jimerson, Randall C. "Archivists and Social Responsibility: A Response to Mark Greene. " *The American Archivist*, vol. 76, no.2, 2013, pp.335-345. <https://doi.org/10.17723/aarc.76.2.2627p15350572t21>

参考文献（スライド文中未掲載分）-3

Oliver, Gillian and Fiorella Foscarini. *Records Management and Information Culture: Tackling the people problem*. Facet Publishing, 2014.

Ramirez, Mario H. "Being Assumed Not to Be: A Critique of Whiteness as an Archival Imperative." *The American Archivist*, vol.78, no.2, 2015, pp.339-356.
<https://doi.org/10.17723/0360-9081.78.2.339>

Wallace, David A. "Archives and Social Justice. " *Currents of Archival Thinking*. 2nd ed., edited by MacNeil, Heather and Terry Eastwood, Libraries Unlimited, 2017, pp.271-297.

Zinn, Howard. "Secrecy, Archives, and the Public Interest." *The Midwestern Archivist*, vol.2, no.2, 1977, pp.14-26. <http://digital.library.wisc.edu/1793/44118>

(URLはすべて2021-10-25最終確認)

ご清聴ありがとうございました。

izhirano@rikkyo.ac.jp